

開催日時：平成 30 年 12 月 12 日（水）
《研究会》18：00～19：20 《懇親会》19：30～21：00
開催場所：大阪府門真市 パナソニック企業年金基金「松心会館」
《研究会》2F 研修室「1」《懇親会》大広間 1, 2
出席者：合計 43 名

◆研究会：

高垣支部長の挨拶から始まり理事会内容の報告後、新研究会会員の宇野様、長崎様、及び初参加の奈須様、松岡様、山本様、岡本様が紹介された。

講演会

演題：「輸送包装設計のための振動衝撃計測の最新動向」

講師：神栄テストマシナリー株式会社 事業開発部部长 工学博士 川口和晃 様

1. はじめに

- ・神栄テストマシナリー株式会社様は、製品や包装貨物が落下や衝撃を受けるリスクが増える中、製品設計や包装設計に関わる試験装置、輸送環境調査や解析を行う計測機器、並びに各種セミナーやコンサルティングなど、落下・衝撃に対する信頼性の向上を実現するためのトータルサポートを提供されている。

2. 輸送環境調査と包装設計の関係

- ・適正包装設計は、物流時の「輸送」「荷役」「保管」の各輸送モードでハザードが発生し、製品ダメージに発展することを考慮しなければいけない。そのためには、輸送環境調査を行い包装貨物評価試験にて安全を確認しなければいけない。
- ・また、実際に発生する外力を推定するため、①輸送環境調査を元に、②衝撃強さ試験を行い、③衝撃設計・緩衝材料評価試験・包装設計に反映させ、④評価試験を行う、という 4 つのステップを踏む。

3. 輸送環境調査の基礎

- ・輸送環境調査は、1) 保険会社の輸送保険、2) 輸送時の貨物破損再現試験、3) 輸送品質管理向上、4) 輸送機関・ルート選定、5) 包装貨物試験規格（落下試験、振動試験）の定義、等に活用されている。
- ・調査には**輸送環境記録計**（データを溜めパソコン等で解析する装置）を用いる。記録計は、簡易データ記録計と詳細波形記録計に大別され、調査目的に応じて使い分ける。
- ・輸送環境調査のフローは、①調査目的の明確化、②必要データ解析、③記録計の選定、④調査実施、⑤データ解析・フィードバックの流れとなる。

4. 輸送環境調査に関わる最近の動向

- ・最近の動向として、「ASEAN 地域のトラック振動特性」、「日本国内トラック振動データの判断指標」、「実輸送データに基づく包装貨物ランダム振動試験条件の設計検討」等についてお話を頂いた。
- ・最後に、「無線型衝撃ロガー開発と応用」についてお話を頂き、パソコンではなくスマホで操作できるロガーを開発中で、2019 年初旬に販売していく計画にあるとのことであった。ご講演後に活発な質疑応答が行われ、大変有意義なご講演であった。

- ◆懇親会：12月12日（水）19:30～21:00 出席者 43名 松心会館 大広間
富士相談役の乾杯の音頭で開催し、桃川様の心に残る中締めで閉会した。
- ◆第144回研究会：2019年2月6日（水）に開催する。



挨拶の高垣様



講演の川口部長様



新入会の左：長崎様・宇野様



初参加左：奈須様、松岡様、山本様・岡本様



忘年会で乾杯の富士様



締めの桃川様



忘年会参加者⇒